

京都府内で
活躍中！

京都の

温暖化防止 活動推進員

おんだんかぼうしかつどうすいしんいん

過去に発行した
京都府地球温暖化防止活動推進センター通信
「うおーみんぐ」No36(平成25年4月)～No52(平成
29年3月)の記事より抜粋して作成しました。





東日本大震災後、再生可能エネルギーを地域に広げる活動実践中

こやの
古家野辰也
さん
(城陽市)



2017年1月の京都府地球温暖化防止活動推進員(以下推進員)研修の南部会場で活動報告して下さった古家野辰也さんは、第7期から推進員として活躍しています。城陽市を中心に活動しているNPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会の事務局長でもある古家野さんに、活動についてお話を伺いました。

市民共同で太陽光発電の拠点を増やす

2011年3月11日に起こった東日本大震災の10か月後の1月、城陽市ではエネルギーについて考える講演会が行われ、240名もの方が集まりました。その講演会で再生可能エネルギーの普及の必要性を痛感した古家野さん。何回か再生可能エネルギーによる発電事業を考える学習会や懇談会を重ねるうちに行政や学校関係、民間会社の退職者等が共に新しい団体を立ち上げる動きとなりました。「ちょうど定年を迎え、再雇用で仕事を続けようかな、と思っていた時期でした。この講演会を聞いて仕事は辞め、これからは再生可能エネルギーを地域で広げる活動に専念しよう」と決意をされたそうです。

しかし、新しく活動を起こすには、苦勞が伴います。「団体を立ち上げ市民共同で発電所を設置する仕組みを作るのは、細かい作業や書類づくり、資金集めや資金の返済実務など作業が多くて本当に大変でした。また、設置場所を決める過程でもずいぶん苦勞しました。」と古家野さんは振り返ります。

第1号機太陽光発電所が完成

最初は、市役所や教育施設などの公共施設や店舗の屋根などに太陽光パネルを付けられないかとあちらこちらで相談したのですが、なかなか「ここ」というところに出会うことができませんでした。そこで個人宅などに太陽光を付ける「個人宅おひさま発電ゼロ円システム」という方式での市民共同発電所の設置を目指すことに。この仕組みは長野県飯田市の事例を参考にしたそうです。

そして、2013年11月に1号機の設置が実現しました。

「1号機に手を挙げてくれる人が現れ、資金もあつという間に集まったんです。」と当時を思い出して古家野さんは嬉しそうに話します。その後2016年11月には10号機まで設置することができました。

勉強会を通じて省エネ・節電活動にも着手！

古家野さんの所属する団体では、太陽光発電所設置と並行して、年に何回か再生可能エネルギーや省エネ・節電について勉強会も定期的に開催しています。昨年は、地中熱利用や電力自由化、家庭でできる省エネについても学びました。この勉強会開催はメンバーで推進員でもある杉浦喜代一さんがリーダーとなり、開催にかかる準備や実施などを引っ張ります。メンバー同士でうまく役割分担をして、1年の活動を実りあるものにさせています。

太陽光発電以外の再生可能エネルギーの可能性を探る

今後の活動については、「これまでの活動でのような太陽光発電普及だけでなく、水力、風力、バイオマスなどの他の再生可能エネルギーの可能性についても模索したい。」とのこと。今年も講演会、エコライフ診断、出前学習会、勉強会も実施する予定です。「家内にええかげんにしてや言われているのですが」と笑う古家野さんですが、これからも仲間のメンバーとともに活動を続ける意気込みを感じさせられました。



1



2



3

[写真]

- 1 会の代表の土居さん(左)、理事の杉浦さん(右)とともに
- 2 点灯式1号機4.56kW城陽市寺田深谷(2013/11/5)
- 3 節水型シャワーヘッドお勧め中です。城陽さんさんフェスタ会場にて(2017/2/12)



学生時代に出会った「火のある暮らし」を多くの人に伝えたい、お母さんになってさらに広げたい「木に囲まれた暮らし」

松田直子さん
(京都市)



第5期から京都府地球温暖化防止活動推進員として活躍している松田直子さんは、京都市内の町屋を拠点に、木質バイオマス利用を広げる活動に日々奮闘しています。今回は、松田さんの活動について紹介します。

木質バイオマスエネルギーの利用を広めたい

松田さんは大学生の時、木質バイオマス利用をテーマに卒業論文を書きました。「薪やペレットストーブが北欧では利用されているのに、日本での利用はあまりない。森の保全活動している人たちはたくさんいるけど、バイオマスをテーマに活動している人も日本には少ない。」それなら「私が木質バイオマスを広げよう」。松田さんは森林関係の活動で知り合った仲間たちとともに、薪やペレットストーブの普及に焦点を当て活動を始めました。今では、木質バイオマスやペレットストーブのことなど、松田さんに相談や講演依頼が全国からあり、木質バイオマスのスペシャリストとして活躍しています。今年から始まった京都再エネコンシェルジュ認証制度の立ち上げにも関わってくださっています。

ペレットストーブの利用を京都の町家で発信

京都の町の真ん中で木質バイオマス利用を進めたいと考えた松田さんは、10年前に会社を立ち上げ、6年前から京都市中京区の町屋で「京都ペレット町家ヒノコ」(以下ヒノコ)を始めました。ヒノコでは、冬にはペレットストーブの火に直接あたりながら、火のある暮らしが体感できます。また、2階では七輪でのお茶会ができるように道具も貸し出します。その他、ヒノコの室内装飾や家具、食器なども木でできているものばかり。ヒノコでは、木に囲まれた暮らしが体感できるので、活かした体験学習の場にもなっています。

林業女子の活動を支援

松田さんは、若い世代の担い手支援にも関わっています。たとえば、大学生を中心とした林業に関心のある女性達による「林業女子会@京都」の定例会議やイベントの場所として、ヒノコを提供しているそうです。

その他、学校での体験学習や起業支援をしたり、イ

ンターン生や学生と連携して京野菜カフェを開いたりしています。

火と木のある暮らし=低炭素で豊かな暮らしを！

松田さんは、「これまでの活動を通じて、日本の木質バイオマス利用の優れた点も見つけたので、その良さを伝えたい」と思い、「七輪について、そして、菊炭に見られるような日本の高度な炭焼き技術についてもぜひ世界に発信していきたい。」と今後の活動について語ります。

そして、今年の夏、第一子を出産されたことで、「子どものために木の製品を出来るだけ使いたいと思っている。しかし、木製の積み木など値段が高くてなかなか手が出ない。そこで、子ども達が気軽に使える木の品物が増えるように、啓発も含めて活動していきたい。」それに、「脱プラスチック生活を目指すことは化石燃料の利用を減らし、温暖化防止にも繋がる」と、熱く語る松田さん。これからは、「火のある暮らし」とともに「木に囲まれた暮らし」を提案していきたいと、松田さんは今後の活動にも意欲的です。



松田さんが運営するヒノコ(京都市中京区)



木質バイオマス普及のためのセミナーを開催



あるときは省エネアドバイザー、あるときはうちエコ診断士、あるときはエコメイト、多彩な顔をもってボランティア生活を満喫！

今回はこの人！
村山修一さん
(亀岡市)



定年後は環境関連のボランティアになる！

第6期から京都府地球温暖化防止推進員(以下、推進員)として活躍している亀岡市在住の村山修一さんは、省エネアドバイザー、うちエコ診断士として家庭の省エネアドバイスをを行うとともに、地元亀岡市を含む南丹地区で実施されている「未来っ子温暖化防止授業」の活動にも参加しています。そんな多彩な顔を持つ村山さんですが、ボランティアをはじめのきっかけは、「定年になったら環境関係のボランティアをしよう」と決意し、出会ったのが推進員と京エコロジーセンターのエコメイトの制度だったそうです。

推進員活動の「はじめの一步」は冊子作りの協力

推進員として村山さんがまず動いたのが、当センターが2014年度発行した『自然エネルギーのある暮らし。』の冊子作成の協力でした。この冊子は、京都府内各地の推進員に記者として協力してもらい、京都府内の再生エネルギーを利用する家庭の実践例を集めるものでした。村山さんは亀岡市内の薪ストーブユーザーである知人の家へインタビューに向き、その記事を紹介する役を担ったのです。その後、村山さんの活動は省エネ啓発の分野に広がり、省エネ相談所のアドバイザーをしたり、うちエコ診断士をしたりと活躍されています。

これからは、創エネについてもっと伝えたい

村山さんは、京都市内の環境学習施設、京エコロジーセンターのエコメイトとして、月2回館内案内も行います。さらにエコメイトには自主的なグループ活動があり、そのグループのひとつ「エコエネ研究会」のメンバーとして省エネや自然エネルギーについて伝える活動にも参加しています。今年度は新しい取組として、夏休みにエコライト工作教室を企画し実施しました。この工作教室の実施は、村山さんたちにとって新しいチャレンジであり、大変苦労をされたようです。

例えば工作内容ですが、「太陽光を使った工作を作っ

てもらおう、と思いつくまでは簡単でしたが、内容を含め企画するのは、大変であることにすぐに気が付きました。8月17日の実施日までに結局3ヶ月を費やしてしまいました。まず工作のネタです。“ペットボトルで、マイエコライトを作ろう”という教材を選んだのですが、これにはメンバーの一人に譲れない気持ちがありました。それは、ソーラーカーなどは作ってもすぐに飽きてしまい、これでは物を大事にすることを忘れてしまうのではないかと懸念です。夜になると、毎日点灯して、その灯りで自分の描いた絵が照らされ、使い続けるマイエコライトでなければならない、という思いです。」と村山さんは語ります。

長い準備を整え迎えた8月17日には、2回の教室で30名の子どもの参加がありました。参加した子どもたちのアンケートからは、「楽しかっただけでなく、今回制作したエコライトを使い続けたい」という意見も多く、村山さんたちのねらいは参加者に受け止めてもらえたようです。

子どもの反応以上に刺激を受けたのは村山さんたちだったようで、「このイベントを楽しんだのは、子どもたちより私たちスタッフの方だったと思います。スタッフメンバーがそれぞれのパートを受け持って参加者全員が満足できるようにパスワークを行うことが、逆にとても楽しいものだと感じました。準備の時間がかかった分、終了したときの満足度は格別です。この気持ちをこれからも、いろいろな方とイベントを通して共有していければ良いと思っています。」と村山さんは今後のイベント企画にも意欲的です。これまで省エネ活動の推進に一役買ってきた村山さん。今後は「再生可能エネルギーなど創エネ普及にもっと力を入れていきたい」と熱い想いを抱いています。



子どもたちと工作をする村山さん



「省エネナビで電力の見える化。電気使用量10%削減」 「効果があった省エネ術を、多くの人に伝えたい」



今回はこの人/
中山彩子さん
(長岡京市)

賃貸マンションでもできる取り組み

2014年夏に、神奈川県から京都府長岡京市へ引っ越しをしてきた中山彩子さん。長岡京市の広報紙を見て“省エネナビ貸出事業”に申し込みをされました。「引っ越し前から、もったいないなあと思って、省エネタップを使ったり、誰もいない部屋の電気は消したりしていました。引っ越しの際にも、LEDや節水シャワーヘッドを設置しました。その後、省エネナビモニターになり、さらに取り組んでみよう！という気持ちになりました」

本当は二重窓にしたかったけど賃貸なので出来なかった、という中山さん。「窓枠ごとプチプチシートで覆ったときに、窓とプチプチの間の温度が部屋側の温度と約6℃も違ったんです。びっくりしました」。ほかにも、カーテンを三重にする・玄関からの冷気を遮るビニールカーテンを設置する・ドアの下にすきま風防止テープを貼る・マンションの金属製のドアに発泡スチロールを貼る・段ボールとプチプチシートでカーテンボックスを自作するなど、冬に向けて、賃貸マンションで、しかもDIY以下の工作でできる工夫を探しました。「思ったらすぐに実行したくなるんです」。自らの経験を、省エネナビモニターの意見交換会で紹介されたそうです。

その後、長岡京市“ステップアップチャレンジ会議”の“省エネ推進チーム”に参加。2015年4月から京都府の推進員に委嘱されました。「省エネナビモニターの意見交換会や、ステップアップチャレンジ会議のミーティングで、いろいろな情報を知ることができます。最近では、推進員としていろいろと資料を送ってもらうので、良いなと思う資料をモニターさんへ紹介することも多いんです」と中山さん。

「今月のいちエコ」長岡京市広報紙に掲載

ちょっとした工夫でも省エネ効果があると実感すると、多くの人に伝えたいという中山さん。「広報



長岡京環境フェアで活躍する中山さん

長岡京を見て、ページ上部に空白スペースがあるなあと思って。ここに省エネ情報を載せられないかなというアイデアを、当時の省エネナビ担当者に話しました。そうしたら、担当さんがすぐに広報担当と相談してくださって、“今月のいちエコ”という情報発信をすることになりました。今日からすぐ実践できるような取り組みを2~3行にまとめて、毎月1日号に掲載されることに。「内容は、季節のことも考えて、省エネ推進チームで話し合い決めていきます」。また、「いちエコレシピ」を作成され、省エネナビモニターさんへ、あるいはイベントや省エネ相談所などで配布されています。

もし、長岡京市の全世帯が取り組んだら…？

省エネナビで電力の見える化し、情報交換するなかで、参加モニターさんの電気使用量を平均して約10%も減らすことができたとのこと。もし、長岡京市の全世帯が、この取り組みをしたと仮定すると…？

長岡京市役所の方と一緒に、ざっくりと試算されたことがあるそうで、平成24年4月～平成25年3月までの長岡京市内の年間の電気使用量（※1）165,306,000kWhが10%削減された場合、電気料金だと年4億円以上（※2）もの節約効果となるそうです。

がまんや無理をすることなく、ムダなエネルギーを見つけて、快適性を保ちながら“上手に削減する余地”は、まだまだありそうです。

（※1）事業所を除いた一般家庭の使用量（街灯を含む）/長岡京市統計書
（※2）27円/kWhで計算した場合



第7期
地球温暖化防止活動推進員
府内各地で活躍中！

PART
9

発足したての「桃山エコ推進委員会」 小学校で初めての出前授業

伏見桃山城のふもとにある京都市「桃山学区」。この地域に住む京都府地球温暖化防止活動推進員たちが、地域に根ざしたエコ活動をすすめようと、2015年4月に「桃山エコ推進委員会」を正式に発足しました。春には「緑のカーテン」の苗配布会、夏は地域のお祭りでソーラー工作教室、秋は防災訓練で「ロケットストーブ」の実演と、初年度から多彩な活動を展開しています。

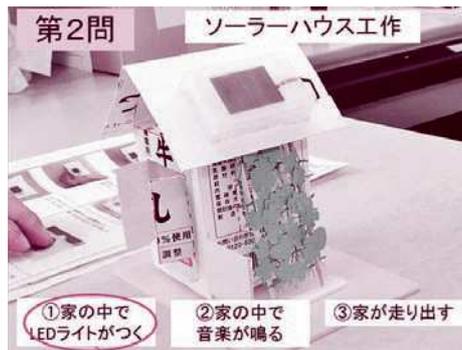
晩秋のある日、メンバーの1人が、地元の京都市立桃山小学校の先生に「私たち、こんな活動をしているんやけど」と持ちかけたところ、早速先生たちと打ち合わせの場が設けられ「子どもたちに環境授業をしてもらいましょう」となりました。

同校では5年生が夏から秋にかけて温暖化の学習（京都市子どもエコライフチャレンジ）に取り組む、先生方は、そのフォローアップの学習をどうしようかと考えていたのだそうです。温暖化の仕組みや対策については既に学習済みなので、「地

域住民のエコ活動を紹介する」という観点から授業内容を組み立てることにしました。

今までの活動をクイズ形式で紹介するスライドと、7人のメンバーが交代でしゃべる台本を用意して迎えた12月17日。3校時に5年生3クラスが集合し、授業がスタートしました。緑のカーテン・太陽光発電・ごみ減量・ロケットストーブなどがクイズと写真で紹介され、最後に、パリで会期を終えたばかりの国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で決められた「世界の気温上昇を2℃未満に」という目標について説明がありました。

子どもたちは、近所のおじちゃん・おばちゃんの話に興味津々で、積極的に手を挙げてクイズに回答。授業後は、教室に持ち込まれたロケットストーブの実物を覗きに来ていました。「桃山のエコ活動のこと、おうちの皆さんにもお話ししてね！」と和気あいあい、世代をこえて交流が深まった1日でした。



[写真]

左上：
子どもたちに
話しかけるメンバーたち

左下：
答えはどれかな？
挙手する子どもたち

右上・右下：
活動をクイズ形式で
紹介した自作スライド



体験・実験・ゲームなど楽しみがいっぱい「夏休み少年少女エコ体験ツアー」 8/19開催
-企画から当日スタッフまで、京都府地球温暖化防止活動推進員が大活躍！-



野 田川フォレストパークにて8月19日に行われた「夏休み少年少女エコ体験ツアー」には、丹後2市2町（宮津市、伊根町、与謝野町、京丹後市）から25名の小学生が参加しました。参加した子どもたちは、盛りだくさんのプログラムにもかかわらず、終始、夢中で取り組んでいました。ソーラークッカーでのゆで卵づくり、竹筒ご飯炊き、竹箸を使った豆つかみ競争、地元の昔ばなしの紙芝居と、多彩なメニューでした。

活動に使う道具も手作りで！ 

時間的に制約のある多くのプログラムとは異なり、一日かけてのこのイベントでは、それぞれの活動に使う道具も子どもたち自らが作ることが可能です。

たとえば、ソーラークッカーづくり。銀紙が貼ってある一枚の厚紙を切り、それを組み立てます。ソーラークッカーの中心に黒く塗った空き缶を置き、その中に生玉子をいれます。そして、ペットボトルで作ったふたをして屋外に2時間ほどおいておきます。お昼の時間になって、やけどしそうな熱さの玉子。それでも、「それを割っても大丈夫なのか」と半信半疑な様子の男の子が、殻を剥き始めてびっくりした声を出しました。「わー、ゆで卵やん。」お日さまの力で料理ができることを実感した瞬間でした。

そのほか、ご飯を炊く竹筒もゲームに使う竹箸も、全て参加した子どもたちが作ります。真剣に黙々と作業をする子どもたちの姿が印象的でした。

推進員だからこそできる企画がいっぱい 

これらの活動の企画に大いに関わっているのは、主催である「丹後の豊かな環境づくり推進会議（以下、推進会議）」に協力する委員16名。それぞれの市町から4名ずつ選ばれています。そして、その委員の11名が推進員です。地元のことを熟知している推進員だからこそ、地域色ある

活動が提案できます。

活動内容には、体験を重視していることはもちろんですが、地球温暖化防止について考えたり、地元丹後の環境を考えたりするヒントがたくさん組み込まれています。さらに、推進員の得意分野にあわせて、準備から当日の活動まで各推進員が担当します。

たとえば、自然エネルギーの普及に尽力している推進員の川内弘睦さんは、ソーラークッカー工作などの担当です。川内さんは、自然エネルギー利用、電気がどのように作られているのかなどを子どもたちに分かりやすく説明します。推進員の岸辺敬さんと中山康成さんは竹筒ご飯炊きのための竹筒工作と炭火おこしの担当です。竹の工作活動を通じて、丹後の山が竹に浸食されている現状や、竹を伐採し活用する必要があることを子どもたちに伝えます。

お米などの食材準備は推進員の黒岡芳子さんの担当です。丹後が食材の宝庫であることや、地元産を食べることの大切さを、丹後産のご飯や玉子を使って黒岡さんは子どもたちに伝えます。丹後の昔話を紙芝居で見せるのは推進員の味田佳子さん。地元につながる昔話を丹後弁で聞かせることで、子どもたちに丹後の郷土について考えてもらう時間を作ります。

その他にも推進員の藤原清隆さん、小林由美さん、上山初美さんも、班長として子どもたちの活動を優しくサポートします。

今後も行政と住民の連携で 

「ここ数年で、行政ともうまく連携したプログラムができるようになり、子どもたちにも貴重な体験をさせることができ嬉しい」と会長の後藤幸雄さんは話します。

このように推進会議が作り出すイベントは、企画から実施まで、行政と住民の連携で生まれています。今後も環境シンポジウムなどが予定されていて、丹後地区の推進員からどんな地域色あるイベントが企画されるのか目が離せません。



貸し出し教材を活用して小学校で環境学習授業を実施！



京田辺市立草内小学校での授業の様子。みんなで発電機を回して電球を点灯させました。

7期から新しく推進員になった大学院生の中村拓人さんは、環境問題に取り組む学生組織である「同志社大学エコプロジェクト」のメンバーです。

同志社大学エコプロジェクトの活動の一つが、京田辺市教育委員会と連携して実施する、小学校での環境の授業です。今年度は、京田辺市立草内小学校4年生を対象に、子どもたちが自分で考え、体験することを大切にされたプログラム（全8回）を実施しました。

ゴミの授業では、ゴミ処理施設の見学やリサイクル工作の後、ゴミ問題の現状について説明しました。

電気の授業では、班ごとに分かれ、4つの手回し発電機をつなげて1つの白熱電球を点灯させる実習を行いました。「電球をたった1つ点けるだけでも多くのエネルギーが必要であることを実感してもらえたようです。子どもたちは、楽しんで参加してくれました」と中村さんは振り返ります。手回し発電体験の後には、発電所のしくみについて学びました。ここで用いたのは、発電学習キット。本来は、その場でお湯を沸かし、蒸気を使って発電する様子を見ることができるとは、教室で火を使うのが難しいこと、現場の準備・実演に

時間を要することなどを考慮し、事前に実験の様子を撮影しておき、教室ではその動画を用いて説明したそうです。

水に関する授業では、ペットボトルを用いたの濾過実験をしました。底を切り抜いたペットボトルの口をティッシュで塞ぎ、その上から草・落ち葉・石の粒・小石を入れて層をつくり、上から泥水を流す実験を実施。黒ずんだ泥水を入れたのに、濾過され下から透明な水が出てくると子どもたちはびっくり。

この実験の原理が、森が水をきれいにする原理と同じということを説明し、森林を守ることの大切さも合わせて子どもたちに伝えました。

環境学習授業の総まとめとして、ゴミ・電気・水の3テーマのいずれかについて班で話し合ったことを模造紙にまとめ、授業参観日に保護者の前で発表しました。「どの班も、個性を出してまとめていました。みんなが学んだことをしっかり発表している様子を見ることができてよかったです。この授業を通して、子どもたちに少しでも環境に配慮した行動を心掛けてもらえることを期待しています。」と、中村さん。

温暖化防止活動の若き担い手により、さらに若い将来の担い手づくりが進んでいます。

手回し発電電球点灯キットや、発電学習キットは当センターで貸し出しをしています。詳しくはお問い合わせいただくか、当センターのホームページをご覧ください。

<http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/tool/tool.html>

ホームページはコチラ



「今」 回のツアー、バスでまわることにしたから、みんなが車で参加するのに比べてCO₂を131kg-CO₂も削減できたんですよ。

一般の人も乗車可能な「ぐるっと丹後周遊バス（ぐるたんバス）」の中に、推進員 味田佳子さんの声が聞こえます。これは、11月23日に行われた「丹海バス『ぐるたんバス』で行く 知ろう つなごう 丹後の暮らし」の一幕。一行は、途中下車して、伊根の舟屋を中まで見学。推進員の中山康成さんが「最近、高潮などが心配ではないですか」と尋ねると、「昨年とはかく、一昨年

は、これまで経験したことのないくらい潮が高かったなあ」との返事が返ってきたそうです。その後も、途中下車を繰り返して、地元産食材を使ったお昼ご飯を食べて地産地消に関する話を聞いたり、神社に行き、宮司さんから、地元の歴史やイチョウの色づきなどについての話を聞いたり。総勢約20人が、丹後の環境を見つめ、大いに楽しんだのだとか。

このツアーを実施したのは「丹後の豊かな環境づくり推進会議（以下、推進会議と記載します）」。宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町の丹後2市2町の行政と住民らが連携

して平成24年に立ち上げた組織で、推進会議の委員の多くは地球温暖化防止活動推進員に委嘱されています。

メンバーがボランティアでアイデアと労力を出し合って、手作りで企画を行うのが推進会議のスタイル。今回も、委員である推進員らが企画を思いつき、「みんなが車を出したり、わざわざバスを仕立てたりして行ったら、CO₂を増やしてしまう。せっかく『ぐるたんバス』が走ってるんで、これに乗ったらええわな」と、1日バスを購入して途中下車を繰り返すツアースタイルを選んだのだとか。



バスの中で説明する推進員



舟屋の説明



丹後環境シンポジウム

推 進会議が前身団体の頃から、まさに手作りで続けてきた「丹後環境シンポジウム」と「少年少女エコ体験ツアー」も、近年では恒例行事となってきました。

昨年度の「丹後環境シンポジウム ～食と環境について考える～」には、なんと300名もの参加者が集まり、会場に入りきれない人もでるほどの大賑わい。環境落語、環境保全活動に取り組む地域住民の映像上映などに加え、二市二町の小学生による発表がありました。子どもたちは、それぞれの環境保全活動について、寸劇を交えるなどの工夫を凝ら

して発表しました。小学生が発表するとなると、その保護者も会場に駆けつけて話を聞いてくれます。多くの人に情報を伝えるという観点からも、この手法は他地域でも参考になりそうです。ただし、言うは易し、行うは難し。日曜日に小学生に発表してもらうとなると、事前調整が大変だったはず。それを実践できるところが、推進会議が持つネットワークのチカラなのでしょう。

昨年度の「少年少女エコ体験ツアー」には、24名が参加。ソーラークッカーづくりを体験しました。指導したのは、推進会議の委員であり、

推進員でもある川内弘睦さん。子どもたちにも分かりやすく説明してくださいました。

今年度も、冬から春にかけて、丹後環境シンポジウムと少年少女エコ体験ツアーが計画されているそうで、次はどんな手作り企画が飛び出すのか、とても楽しみです。

地域の環境を見つめ、魅力を再発見する。温暖化防止を前面に振りかざすのではなく、素敵な地域を作ろうと呼びかけ、担い手をつなげ、取り組みを広げる。まさに低炭素型地域づくりの担い手である推進員の活躍が、丹後で続いています。

第6期

府地球温暖化防止活動推進員 市内各地で活躍中！

part5



環境出前授業のエキスパート！

京丹波町

今回ご紹介する推進員は田中良興さん。本業は高校の理科の先生ですが、週末を中心に理科の実験を取り入れたオリジナルの「環境出前授業」を各地で行なっています。

8月9日には京丹波町中央公民館で「地球温暖化を科学する」と題して開催された講座（主催：京丹波町女性の会）の講師を務められました。

授業は当日京都に接近中だった台風に関する時事ネタからはじまり、省エネに関するクイズあり、調べ学習あり、手品あり、最後にはちょっとしたおみやげ（紅葉前の緑色の葉と紅葉後の葉をラミネートし紅葉のメカニズムの解説を加えたシート）ありと聴講者を飽きさせない工夫がたくさんあり、2時間があっという間に過ぎました。

特に紅葉については、イチョウとカエデのメカニズムの違いをわかりやすく解説し

た上で「紅葉の時期がだんだん遅くなっていることは京都府内の経年調査でもはっきりわかります」と温暖化の話に結びつけるなど、面白い切り口からの話の展開に非常に勉強させていただきました。また、この日の出前授業には教え子の高校生がアシスタントとしていらしており、テキパキと授業の補助をされていました。出前授業の参加者だけでなく、アシスタントの高校生たちにとっても良い経験と学びの場であったと思います。

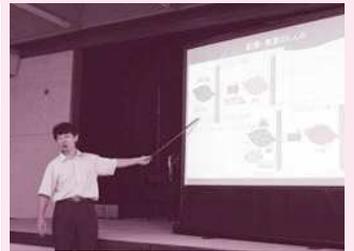
今回の出前授業は田中さんの活動の一端に過ぎません。環境カウンセラーや省エネルギー普及指導員、うちエコ診断士など環境問題やエネルギーに関する資格をいくつもお持ちで、この他にも多方面で幅広く活躍しておられ、当センターもいくつもの事業で連携・ご協力をいただいております。



▲家電製品の消費電力に関する調べ学習の様子。



▲紅葉のメカニズムを解説したラミネートシート（本物の葉っぱ入り）



▲出前授業の様子。使用されている指し棒は何もない空中に突如現れました（手品）

お日様とミスト（霧）の力で、夏の涼しさ体験 オリジナル紙芝居を使って、城陽市内保育園で出前講座を実施

城陽市



▲ミスト装置の下で遊ぶ園児たち（清心保育園）



▲ミスト装置がついた扇風機（青谷保育園）



▲紙芝居「ゴーヤんとアサガオちゃん」みんな熱心に聞いています（里の西保育園）

舞鶴・海フェスタで省エネタブレット診断と機器展示

舞鶴市

毎年7月、国内の主要港湾都市で開催される「海フェスタ」。この夏は京都府北部の7市町を会場に開催されました。

舞鶴市の赤れんがパークでは、「まいづる環境市民会議」が、海と地球温暖化をテーマに展示コーナーを開設。重要文化財の赤れんが倉庫の中に、地球の海面水位の変化のグラフや、氷河の経年変化の写真などが、わかりやすく展示されました。

7月20日（土）の赤れんがパークは大にぎわい。そんな中、地元舞鶴市の推進員の皆さんが、イベント来場者に「省エネ診断」を実施しました。

当センターが開発したタブレット端末用の省エネ診断アプリは、クイズ形式で楽しめる構成になっています。推進員の説明を受けながら、参加者自身がタブレットを操作し、「うわっ、うち結構エネルギー使ってるなあ!」「シャワーってそんなにエネルギーを使うんや・・・」などと歓声が上がっていました。

また、同じブースでは、内窓・太陽熱温水器・エネファーム・ペレットストーブ・自転車など、創エネ・省エネ機器の実物展示も行われました。この展示は、



▲ 重要文化財の赤れんが倉庫で、海と地球温暖化の展示。



主に地元の住宅設備・エネルギー機器等の販売店の協力を得て実現したものです。

青い青い空と海、そして赤れんが倉庫の趣ある空間で、37名もの方に省エネ診断を体験していただき、推進員と参加者の交流が進みました。



◀ 推進員の皆さんが、省エネ診断を実施しました。



◀ ペレットストーブから自転車まで！エコ機器が勢ぞろいしました。

まだまだ暑さが残る9月2日、城陽市内の里の西保育園に、移動式ソーラー発電ミスト装置が現れました。「わーい、気持ちいい！涼しい!」、初めは恐る恐るミスト装置をくぐっていた園児たちが、次第に楽しそうにミスト装置の下で遊びます。さらに、扇風機の前は、我も我もと園児たちが集まってきました。それもそのはず、この扇風機にもミスト装置がついており、扇風機の風とミストで、とても涼しいのです。

これは、城陽環境パートナーシップ会議の循環・地球環境部会が行う環境出前講座のひとつ。紙芝居と体験メニューからなる30分ほどのプログラムを用意し、城陽市内の保育園をまわっています。この講座が

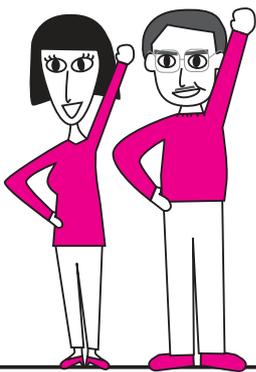
始まって今年で3年目、2014年夏は市内8つの保育園で実施しました。この日は、会長の大野和宣さんと副会長の芦原昇さん（両氏とも推進員）が園児たちの先生です。

園児たちに紙芝居「ゴーヤンとアサガオちゃん」を読むのは芦原さん。この紙芝居は城陽環境パートナーシップ会議のオリジナル紙芝居で、昨年度、会員がシナリオを書き、城陽高校美術部が絵を描き、協働で完成させた2作品のうちの一つです。高校生の皆さんは、絵だけではなく台詞についても積極的に提案してくれたそうです。そんな力作の紙芝居に、園児たちは真剣に耳を傾けていました。

第6期

府地球温暖化防止活動推進員 内各地で活躍中！

part4



京都府内では320名（平成26年6月末現在）の地球温暖化防止活動推進員が各地で様々な地域活動を展開しています。省エネの推進や地産地消活動など地球温暖化の原因である温室効果ガス（CO₂）の排出量を日々減らす活動とともに、CO₂の吸収源となる森林保全活動に日々取り組んでいる推進員もいます。今号では長岡京市と木津川市の事例を紹介します。

木津川市

里山を守りながら温暖化防止活動。 木津川市では、地域ぐるみで活動展開中。



6月21日の午前中、木津川市の鹿背山でチェーンソーの音が響きます。今日は、月3回程度ある「鹿背山元気プロジェクト」の定例作業日です。集まったメンバーのうち3人が、ナラ枯れの木の伐採作業で、木を倒し玉切り作業で汗を流します。

「松枯れの松など今年の冬から数えると100本位伐採したかなあ」と教えてくれたのは、現場で作業をしていた推進員で元気プロジェクトのリーダーの中村伸之さん。

中村さん以外の他のメンバーも推進員になり、里山・森を守る作業に定期的に入っています。活動フィールド内にピザやパンが焼ける窯も手作りで整備し、伐採した松やナラは薪として、調理や冬の暖を取るのに使います。ただ、伐採した材を燃料として使うのは3割程度だそうで、あとは害虫駆除のため燃やしてしまうそうです。

平成26年2月には木津川市地域連携保全活動応援団ができ、鹿背山元気プロジェ

クトを含む8つの団体が鹿背山を守る活動に参加しています。そのいくつかの団体にも推進員が所属し、定期的な活動を担っています。

推進員で「鹿背山倶楽部」の会長長尾輝治さんも、鹿背山の別のフィールドで月2回竹林整備、間伐作業や農作物栽培をメンバーとともに進めています。子どもの環境活動を応援している「木津川市子どもエコクラブサポーターの会」も、四季を通じて鹿背山に入り、椎茸の菌打ちや木を植える作業、野外料理を地産地消の野菜で作るなど子どもたちとともにすることで、推進員が子どもメンバーに森を守る大切さや温暖化防止につながる活動を伝えています。

メモ

京都府地球温暖化防止活動推進計画(平成23年7月)には、具体的な対策のひとつとして「森林の保全・整備を地域ぐるみで推進すること」と明記されています。併せて、「間伐等による森林の適切な管理及びバイオマスの利用促進」も挙げられています。



上：伐採作業（鹿背山元気プロジェクト）
下：ピザ窯（鹿背山元気プロジェクト）

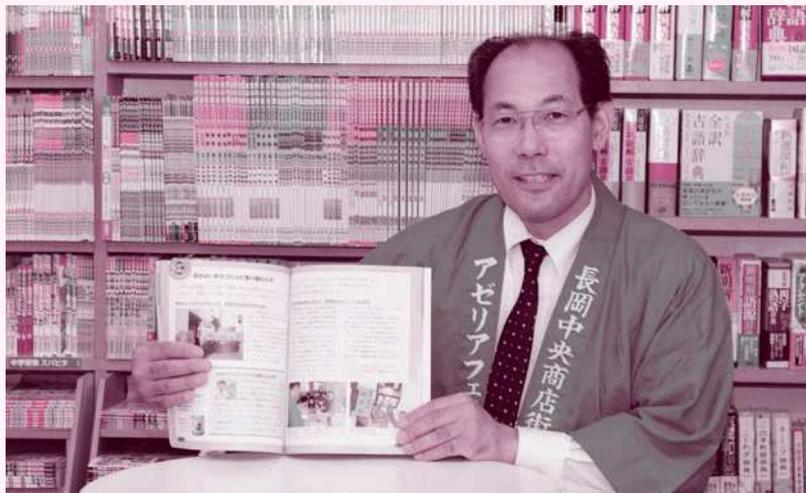


上：稲刈り（鹿背山倶楽部）
下：菌打ち（木津川市子どもエコクラブサポーターの会）

手作りLED街灯が教科書に登場！



長岡京市



教育出版「小学社会3・4下」
(平成26年4月4日検定済)

今から4年半前、当センター主催「きょうとエコワングランプリ2009」に出場した長岡中央商店街（長岡京市）。年90万円の維持費がかかっていた商店街の街灯を、LEDに交換する取組で、グランプリを受賞しました。

LEDブームの現在と違って、当時は照度が十分なLED街灯は市販されていませんでした。商店街メンバーと電気工事が苦闘の末、水道用パイプの芯にLEDを配置し、風呂用電灯カバーをかぶせた街灯用ランプを開発。地元の小学生たちがランプの組立を行い、84基の街灯をすべて水銀灯（1基180W）から手作りLED街灯（1基20W弱）に交換したのです。

取組の中心となっていたのは、同商店街・文京堂書店の中小路貴司さん。京都府地球温暖化防止活動推進員でもあります。4年半経って、この取組はどうなったのでしょうか。

「LED街灯は、予想以上に効果がありました」と中小路さん。「電気代が大幅に安くなったのはもちろん、4年間1回もランプを交換していないんですよ。水銀灯のときは、結構頻繁に球切れして大変でした。」

年90万円だった街灯維持費は、年20～30万円まで削減されているそうです。「当時、『もう来月から街灯を消さなあかん』というところまで追い詰められていて、エコワングランプリに応募したのも、入賞団体への活動支援金10万円が目当てでした（笑）。」中小路さんが振り返ります。

「小学生と組立教室をやったのも、組立費用を出せないがゆえの苦肉のアイデアだった。それを学

校の先生たちが、『子どもたちが作ったランプが10年後も街を照らすなんて、こんなに素晴らしい教育はない』と応援してくれて・・・」「最初の製作会に来てくれた子どもたちが『この街灯ってエコやなあ！』って言うてるのを聞いて、『そうか、これ経費削減だけじゃなくて、環境にもええんか！』って気づいたんですよ（笑）。子どもたちのまっすぐな様子に僕たちが感動して、この子たちを守るため、ほんまに環境を守らなあかん、と思うようになりました。」

長岡京市では、セブン商店街、駅前相互会もLED街灯に交換しました。子どもたちとのランプ製作会も継続しています。地域ぐるみのこの取組、なんと小学校の社会の教科書に取り上げられるそうです！「エコワングランプリに出ってから、たくさん取材を受けましたが、まさか教科書に載せていただけるとは・・・。私たち商店街にとって本当に励みになります」と中小路さん。最初にランプをつくった子どもたちは、もう高校生になっています。製作会でランプにメッセージを描き、点灯の瞬間に目を輝かせていた子どもたち・・・今、どんな進路に向かって歩き始めているのでしょうか。

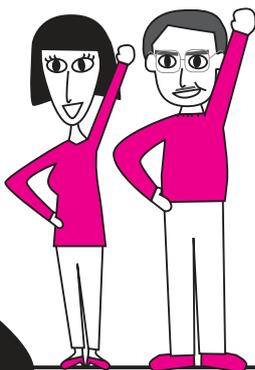


子どもたちが製作したLED街灯ランプ

第6期

府地球温暖化防止活動推進員 各地で活躍中！

part2

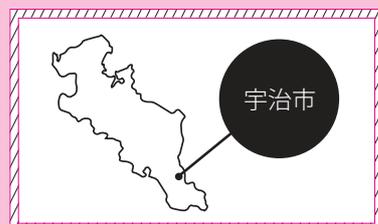


今年2013年は京都府温暖化防止センター設立から10年目。温暖化防止活動推進員の委嘱は6期目を迎え、推進員さんの中には、1期目から活躍されている方も。今年も、京都府での温暖化防止活動をさらに盛り上げます。

そんな推進員さんたちの各地での活動について、前号（37号）では、南丹市、綾部市、京都市の3つの地域を取り上げてお届けしましたが、今号では、宇治市と京田辺市の2つの事例を紹介します。

宇治市

「省エネ相談所」を毎月開催！



パソコンの診断ソフトを活用し、来場者に省エネアドバイスを行う「省エネ相談所」。宇治市で初めて開催したのは2007年。地元のママ向けイベントで、当センター職員の参加に推進員が協力して実施しました。

翌2008年もセンター職員と一緒に開催したのですが、2009年3月に「宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議（ecoット宇治）」が誕生。同年から地元メンバーだけで省エネ相談所をスタートし、それ以来5年間にわたって、市役所ロビーで毎月1回開催しています。加えて地元スーパーでも不定期で開催し、開始以来の来場者数は1500人を超えました。

担当しているのはecoット宇治の

「エコライフ推進グループ」。月に1回ミーティングを行い、省エネ学習や相談所スタッフを決定します。最初の頃は当センターから道具を貸し出していましたが、現在ではecoット宇治の予算で省エネグッズ等を購入し、パソコン・プリンタ・机・椅子は市役所が用意するかたちで、自主運営をしています。

「もっと知識をつけてステップアップしたい！」「イベント用の活動ユニフォームをつくりたい！」「出前学習会もやりたい！」メンバーたちの夢はふくらみます。来年は来場者数2000人を達成する予定です！



＼来場者と話が弾みます。／



オリジナルの
のぼり旗

＼事前アンケートに記入中／



地蔵盆にあわせて「こどもエコ祭り」



去る8月27日、京田辺市東住宅自治会で、町内の地蔵盆にあわせて「こどもエコ祭り」が行われました。

町内在住の推進員の発案により、「できるだけごみが出ないお祭りにしよう」「子どもたちに環境問題を楽しく学んでもらおう」というテーマで開催。地域住民、京田辺市の推進員、「きょうたなべ環境市民パートナーシップ」のメンバー等が協力し、「旬のくだもの・やさい当てゲーム」「手回し発電で走る

ミニ電車」「使わなくなったおもちゃの交換会『かえっこバザール』」「牛乳パックでリサイクル工作」など、楽しい催しが盛りだくさん。また、食べものコーナーはマイ食器の持参を呼びかけ、ごみの少ないお祭りになりました。

会場となった公民館は、間もなく取り壊され、新しく生まれ変わるそうです。長年親しんだ建物に「ありがとう」の想いを込めた集いでもありました。

旬ゲームとごみ分別ゲーム /



手回し発電で電車が走る！
竹のトンネルは山城地域ならではの？ /



牛乳パックと太陽電池の電子オルゴールで
「メロディーハウス工作」 /



地域の子どものための
健やかな成長を祈って・・・ /



第6期

府地球温暖化防止活動推進員 各地で活躍中！



推進員委嘱式の様子

4月20日に第6期京都府地球温暖化防止活動推進員の委嘱式が行われ、京都府知事より320名の推進員に委嘱状が交付されて今期の活動がスタートしました。早くも、省エネ相談所、学校での環境教育、保育園などへのみどりのカーテン設置といった活動の情報が、府内各地から届いています。

今回はそんな中から、地域の推進員さん同士が連携して実施している3つの事例を紹介します。

南|丹|地|域

「未来っ子地球温暖化防止授業」南丹地域で展開中！

自転車を児童にこいでもらって、テープデッキから音楽が流れた瞬間、子どもたちから拍手やら「わあー」という歓声が起こります。人力で電気を作る体験プログラムで、小学生向け出前授業での一幕です。

南丹地域（亀岡市、南丹市、京丹波町）では、「未来っ子地球温暖化防止授業」と名づけて、小学生5・6年生を対象にした出前授業を実施しており、毎年小学校15校程度を訪れます。南丹地域の推進員がチームになって、南丹保健所と協働でこの出前授業が実施されています。

平成25年度も5月17日の亀岡市立千代川小学校での授業を皮切りに、この出前授業が始まりました。

授業では、地球温暖化のメカニズムや影響、原因などを子どもたちに伝えます。そのあと、自転車発電で電気を作ることの大変さを体感してもらったり、家庭でのエネルギーの使い方について考えてもらったりします。

推進員さんは役割を分担し、全体の進

行から、旗揚げクイズ、体験コーナーでの説明などをそれぞれ担当して授業を進めます。教育委員会との連絡調整や各実施校との日程調整などは南丹保健所が担当しています。人数が多くてスタッフが足りない時には、京都府温暖化防止活動推進センターから助っ人派遣も。

このように、行政と推進員、センターが協働で環境教育プログラムを実施する南丹地域の取組みが、今後も京都府内各地で展開できるよう、センターとしても支援を続けていきます。



亀岡市立千代川小学校での「未来っ子地球温暖化防止授業」の様子

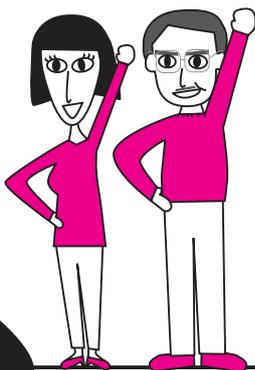
COLUMN 貸出啓発グッズをご活用ください

当センターでは、推進員さんをはじめとする温暖化防止活動の担い手の方々にご活用いただけるよう啓発グッズを用意し貸し出しています。

展示パネル、省エネ相談所説明用キット、自転車発電体験機、手回し発電体験機など様々なグッズがありますので、ぜひご活用ください。

貸出啓発グッズのリストや説明はこちら↓

<http://www.kcfca.or.jp/jigyou/kyouiku/tool/tool.html>



綾部市

百年近く前のタライも登場！ 綾部での環境教育

「これは何かわかるかな？」推進員さんが手に持つのは、なんと95年も前に作られたタライ。綾部小学校で実施された環境教育のひとつの場面です。

綾部市内の推進員の皆さんと当センターとでミーティングを行い、

- ①画像を使った温暖化の説明
- ②レインコートをCO₂に見立てた温室効果の説明
- ③グループに分かれての手回し発電体験
- ④火力発電実験
- ⑤今と昔、エネルギーを使う製品の比較

というプログラムを組み立てました。綾部小学校での授業にも6名の推進員さんが参加して①、③、⑤を担当。とりわけ⑤では、推進員さんが手分けをして、昔使っていた道具を持ち寄り、実物を使って説

明がされました。タライの他にも、洗濯板、炭を使うアイロンや手作りのハタキが登場。打ち水をしたこと、蚊帳をつつて寝たこと、風鈴で涼を感じたことなどがとても楽しそうに語られ、「実物」と「実体験」を通して、エネルギーをできるだけ使わない工夫をして暮らそうと呼び掛けられました。

同様のプログラムは別の学校でも実施予定。また、ある学校では「夏休み省エネチャレンジ」の事前学習・事後学習も行われる予定です。

決まりきった説明をするだけでなく、「推進員にしか語れない」「推進員ならではの」環境教育が広がっています。



昔の道具を使った、
エネルギーを使わないで
暮らす知恵の紹介の場面

京都市

「省エネ相談所」次々実施中

京都市内では、2006年から「家庭の省エネ相談所」の取組が行われています。環境イベントの会場、役所、地域のお祭り、店舗などで、「家庭の省エネアドバイザー」が、パソコンの診断ソフトを活用して、家庭の省エネに関するアドバイスを行っています。昨年度は合計25回の相談所を開設し、約1300名の来場者にアドバイスを行いました。

2007年度に、京都府地球温暖化防止活動推進センター（以下、府センター）と京のアジェンダ21フォーラム（以下、アジェンダ）が共同で、省エネ相談でアドバイスを受けた市民がその後実際にどれだけ省エネに取り組んだか追跡調査を行いました。その結果、平均して約4%のCO₂削減効果があったことがわかりました。

アドバイザーの派遣や研修を行っているのが「省エネ普及ネット・京都」。会長の天野光雄さん、事務局長の山本和仁さんはともに推進員であり、他にも多数の推進員がアドバイザーとして活

躍中です。同ネットの他、気候ネットワーク、京都生活協同組合、ひのでやエコライフ研究所、京エコロジーセンター、アジェンダ、府センター等、NPOと事業者と専門家等が連携して運営しています。

皆様も省エネアドバイザーになり、省エネ普及活動をしましょう。



2012年9月16日

S
K
Y
ふれあいフェス
バルに出展（伏見
区・伏見センターにて）



2013年6月15日

アドバイザー研修の様子
（伏見区・京エコロ
ジーセンターにて）

木の利用で人も地域も元気になる!?

～レポート 動き始めた「京丹後木の駅プロジェクト」～



京丹後市では2012年12月に「京丹後木の駅プロジェクト」が試験的に実施され、84トンの間伐材・未利用材等(以下、間伐材)が地元の山主の方などにより山から搬出されました。搬出した間伐材は、量に応じて地域通貨「モリ券」に交換されます。このモリ券は京丹後市内59の商店等で使用することができ、試験期間中に44万円分の利用がありました。

今回、この「京丹後木の駅プロジェクト」で中心的な役割を担ったNPO法人エコネット丹後事務局長の味田佳子(推進員)さん、京丹後市農林整備課の野村隆文さんのお二人にお話を伺ってきました。

■間伐材や未利用材の利用で地元を元気にする 「木の駅プロジェクト」

木の駅プロジェクトは、地域に間伐材などを固定価格で買い取る集積拠点を作ることで地元の山主の方や森林ボランティアが気軽に間伐材を現金化できる仕組みをつくり、森林整備活動の裾野を広げる取組みです。また、「現金化」と書きましたが実際には「モリ券」と呼ばれる地域通貨が発行されます。用途を地域の商店等に特定することで、森林整備をした結果得られたお金が地域に還元されます。この仕組みは高知県ではじまり全国に広がっています。

■好評を博した「京丹後木の駅プロジェクト」

今回、京丹後市で「京丹後木の駅プロジェクト」が、京丹後木の駅実行委員会(事務局:京丹後市農林整備課)によって1ヶ月間、試験的に実施されました。NPO法人エコネット丹後が事務局となり京丹後市内に3箇所の間伐材の集積地を設け、間伐材の搬出を地域の山主の方に呼びかけた結果、1ヶ月で84トンが集まりました。間伐材の引き取り価格は1トン=6000モリ(※モリ券の通貨単位。1モリ=1円)ということで決して高くはありませんが、試験事業に参加した山主の方からは「また参加したい」という感想が多く、魅力的な事業だったことが伺えます。なお、この間伐材は京都府内のチップ工場に販売されます。

■これからの広がり、期待すること

今回、1ヶ月間という短い実施期間でしたが、味田さんはこの事業に関わり“京丹後市は広葉樹林が多く、薪やしいたけのほだ木に適した丸太が多く集まるのが強み。チップではなくもっと付加価値の高い売り方ができないか”と感じられたそうです。また、山主の方だけではなく、森林ボランティアや地域の若者を集めての間伐材の搬出作業なども行ないたいとのことでした。

短い実施期間で、参加したいけれどタイミングが合わなかった方、取組みを知らなかった方もたくさんいらっしゃったということで、広報に力を入れることでもっと多くの方の参加を得られる可能性を感じました。京丹後木の駅プロジェクトは2013年度も期間を半年に延長して実施される予定です。その中で仕組みの改善とより一層の間伐材の流通促進が期待されます。





地元ケーブルテレビ番組で温暖化防止活動発信中

京 丹波町では、現在6名の地球温暖化防止活動推進員が活躍しており、イベントでの啓発活動や、口丹地区（亀岡市、南丹市、京丹波町）の小学校への出前授業（南丹保健所の「未来っ子地球温暖化防止教室」事業）などを担っています。推進員がきっかけを作った廃食油回収も、和知で2か所、瑞穂で5か所に広がりました。

廃 食油回収は、平成18年から始まりました。京丹波町質美地区では、大みそかに質美八幡宮の竹灯籠を灯すイベント「ミヤナリエ」で廃食油から作ったロウソクを灯しながら、地元の自然環境の保全を呼びかけており、毎年恒例行事になっています。また、平成24年の秋には、廃食油から精製したバイオディーゼル燃料を、9件の農家さんにトラクター等で試用してもらいました。（①）。

質 美地区では、さらに廃校になった質美小学校を利用して「喫茶ランチルーム」を開き、週末には地元食材を使った「しつみランチ」が提供されます（②）。このランチルームの運営スタッフにも推進員さんが参加し、地産地消の実践も進めています。「担当週のメニューを考えるのが一苦労なの」とは、ある推進員さんのコメント。しかしそのお顔は笑顔でいっぱい、楽しみながら活動されていることが伝わってきます。

「喫茶ランチルーム」には、南丹地区の推進員連絡会で作ったチラシ（③）もさりげなく置かれており、地元での活動に温暖化防止の意識を持って取組まれていることが分かります。

平 成25年度は、これまでの活動に加えて、京丹波町広報のケーブルテレビの「クローズアップ京丹波～ワイド～」の番組作り（番組時間42分）に推進員全員が協力、温暖化防止活動などを伝えるレポーターとしても活躍中です。番組名は「おしえて☆エコライフ」で、京丹波町の番組制作スタッフとともに、推進員さんは番組の内容検討からレポーターまでを担当し、今年8月からこれまでに3本の番組が放映されました。

8 月の番組では、京丹波町のクールスポットを紹介。神社やプールなど、外での涼の取り方を伝えました（④）。11月には、『道の駅七彩（なないろ）駅弁』（注）のうちの京丹波町で開発された3つの地産地消弁当を紹介しました。食材の生産者や販売者の取材とともに地産地消が温暖化防止になることを宣伝しました。12月の番組では、琴滝LEDイルミネーションイベント「冬ホテル」の準備風景を紹介しました（⑤）。

今後も京丹波町での地球温暖化防止の伝道師としての活躍が期待されます。 まとめ：西澤浩美

（注）道の駅七彩（なないろ）駅弁とは、京都丹波地域（亀岡市、南丹市、京丹波町）にある7つの「道の駅」が連携して、地元食材を使った新たな「駅弁」を開発し、京都丹波地域の活性化につなげようとする京都府の取組です。



1



3



2



4



5

京都府内で活躍中！ 京都の温暖化防止活動推進員の魅力！



この冊子の内容について詳しく知りたい方は、直接当センターまでお問い合わせください。

京都府地球温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL 075-803-1128 (代表)

FAX 075-803-1130

メール center@kcfc.or.jp

URL <http://www.kcfc.or.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/kcfc>

発 行

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、京都府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動しています。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が、京都府知事からセンターとしての指定を受けました。京都議定書採択の地・京都での温暖化防止活動の活性化に向け、さまざまな人・組織と連携しつつ活動を進めています。

平成 26 年度現在、「低炭素型のステキな京都」を実現することをビジョンに掲げ、(1) 低炭素型の元気な産業づくり、(2) 低炭素型のステキな暮らしの提案、(3) 情報発信・サポートの 3 つのミッションのもと、京都府地球温暖化防止活動推進員と一緒にさまざまな事業を行っています。

この冊子は、京都府平成 29 年度地球温暖化防止府民活動推進事業の一環で作成しました。